

新型コロナウイルス感染症におけるボランティア活動実施

ガイドライン

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、ボランティア活動の中止や延期を余儀なくされ、今後いつから、どのように活動を再開すればよいか、、、など、不安の声が聞こえてきています。ボランティア活動は多種多様であり、これまでと同じような方法での実施することができない場合も考えられます。正解があるわけではありませんが、「新しい生活様式」を踏まえた活動へ変化させながら、少しでも不安を軽減し、笑顔で楽しく活動していきましょう！

ボランティアのみなさんには、本ガイドラインをもとに、活動の方法を見直していただくとともに、これまでと同様のご尽力とご協力をいただければ幸いです。※あくまでも本ガイドラインは、活動する上での目安としてお考えください。

ボランティア活動をする際には、、、

ボランティアも依頼者(活動先)も感染予防

① 発熱や体調不良のときは活動自粛

- ・自宅での検温を行い、平熱であることを確認。37.5度以上の発熱があった場合、また平熱比1度以上超過の場合は、無理せずに休みましょう。また、息苦しさ(呼吸困難)、強いだるさ、軽度であっても咳、咽頭痛などの症状がある場合も同様に休みましょう。

② マスクの着用(咳エチケット)

- ・外出する際は、必ずマスクを着用し、活動中も原則マスクを着用。高温や多湿といった環境下でのマスク着用は、熱中症のリスクが高くなるおそれがあります。マスクを着用する場合には、強い負荷の作業や運動は避け、のどが渇いてなくてもこまめな水分補給を心がけましょう。

③ こまめな手洗い(手指消毒)・アルコール消毒液の用意

- ・活動場所の建物に入る際、手指消毒を行います。各自、各団体で消毒液を用意しておくことをおすすめします。

④ よく触る部分の定期的な消毒

- ・不特定多数の人が使用する物品や設備は使用前と使用後に消毒を行います。

普段からよく触るものは
定期的に消毒をする



ドアノブ



照明などのスイッチ

3つの密(密閉・密集・密接)を避ける

- ① 定期的な(1時間に2回以上の)換気
- ② 会話するときや座席などは向き合わない
- ③ 室内の人数制限(会場の定員の半数以下)
 - ・窓、扉を開放するとともに、部屋の定員を確認し、参加者の座り方の工夫を行います。
- ④ 人と人との間隔を2メートル(最低1メートル)確保(ソーシャルディスタンス)
 - ・人と人の距離を2メートル離すことが推奨されています。また、人と人が向き合う時間を減らし、対面型の座席を避けます。必要に応じてフェイスシールドなどの着用をしてください。

感染拡大防止のために



- ① 活動時間の短縮
 - ・1回の活動時間を2時間以内とします(打合せを含む)
- ② オンライン(インターネット上)で活動
 - ・交流活動の場合、手紙や電話などを活用することも方法として考えられます。
- ③ 時間や場所、グループを分けて活動
- ④ 当日の活動者・参加者名簿をつくり、連絡手段を確保

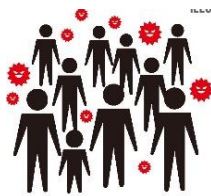
3つの【密】、絶対に避けて!!

換気の悪い
密閉空間



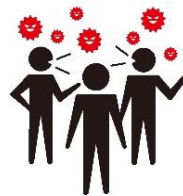
むしむし

大勢がいる
密集場所



ぎゅうぎゅう

間近で会話する
密接場面



がやがや

☆活動の目的を改めて確認し合い、お互いに安心して活動できる方法についてアイデアを出し合い、工夫しましょう!